

回復期リハビリテーション病棟 実績

【令和8年4月～令和8年6月】

回復期リハビリテーション病棟 総退棟患者数	122 名
-----------------------	-------

退棟患者疾患別内訳

脳血管疾患	56 名
脊髄損傷	
頭部外傷	
くも膜下出血のシャント術後	
脳腫瘍	
脳炎	
急性脳症	
脊髄炎	
多発性神経炎	
多発性硬化症	
腕神経叢損傷等（発症後もしくは術後の状態、または義肢装着訓練を要する状態）	
うち、高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	29 名
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折	38 名
または、2肢以上の多発骨折の発症後、または手術後の状態	
外科手術または、肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており手術後または発症後の状態	16 名
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の神経、筋、又は靱帯損傷後の状態	0 名
股関節又は膝関節の置換術後の状態	12 名
その他（上記 回復期リハビリテーションを要する状態以外の患者）	0 名

リハビリテーション 提供実績指数	59.7
------------------	------

※当院では厚生労働省の指針に基づいて実績指数を計算しています。

実績指数 =
$$\frac{\text{各患者の（FIM得点〔運動項目〕の、退棟時と入棟時の差）の総和}}{\text{各患者の}\left(\frac{\text{入棟から退棟までの在棟日数}}{\text{状態ごとの回復期リハビリテーション病棟入院料の算定上限日数}}\right)\text{の総和}}$$

＜実績指数の計算対象＞

- 上記の期間までに退棟した患者
 - ただし、以下の患者を除外
 - 必ず除外する患者
 - ・ 在棟中に回復期リハビリテーション病棟入院料を一度も算定しなかった患者
 - ・ 在棟中に死亡した患者
 - まとめて除外できる患者
 - ・ 回復期リハビリテーション病棟に高次脳機能障害の患者が特に多い（退棟患者の4割以上）
保険医療機関では、高次脳機能障害の患者をすべて除外してもよい。
- 医療機関の判断で、各月の入棟患者数（高次脳機能障害の患者を除外した場合は除外した後の数）の3割以下の範囲で除外できる患者
- ・ 入棟時に FIM 運動項目の得点が 20 点以下の患者
 - ・ 入棟時に FIM 運動項目の得点が 76 点以上の患者
 - ・ 入棟時に FIM 認知項目の得点が 24 点以下の患者
 - ・ 入棟時に年齢が 80 歳以上の患者

※FIM（機能的自立度評価法）とは...
日常生活動作（食事や着替え・移動・排泄・入浴などの生活を営む上で欠かせない最低限の動作）を評価するための方法です。
生活を営んでいくために必要な最低限の能力を把握するために、運動と認知に関する項目を介助量に応じて評価します。